

## 取締役会議長メッセージ



自由闊達な会議運営により、  
ガバナンスの一層の高度化を  
進めていきます。

取締役会長  
(取締役会議長)

柳井 隆博

### 2023年度の振り返り

昨年の統合報告書でもお話ししましたが、当社は2021年4月の経営統合から2年間でPMI期間と定め、取締役会では保守的に幅広く設定した付議基準に基づいて統合会社の全体像を多面的に確認・議論してまいりました。その2年間でPMIが終了し、取締役各人の当社に関する理解も進んだことから、ガバナンス委員会や取締役会における2022年度取締役会実効性評価の議論を経て、業務執行の決定に関する委任の範囲を見直して2023年9月に取締役会の付議基準を必要なものに絞り込み、重要な課題に関する議論により時間を割くこととしました。これにより、2023年度後半からは重要議案の審議に従来以上に時間をかけて、より深い議論を行っています。具体的には、次のようなテーマに関して議論を深めました。

1つは、中期経営計画(2025中計)の進捗モニタリングです。2023年度は2025中計の初年度でしたが、取締役会ではPBR1倍割れの解消に向けた中長期的な企業価値向上など、2025中計の戦略を掘り下げる議論を行いました。もう1つは、取締役のスキルマトリックスに関する議論です。当社の取締役会が備えるべきスキルについて指名委員会で検討し、2025中計の目標や重点施策を踏まえてスキルマトリックスに「IT・DX」を追加しました。その後の候補者へのインタビューや指名委員会・取締役会での審議も含めた一連のプロセスに取締役の積極的な参加を得て、2024年6月より、DXに関する豊富な経験と知見を有する川村佳世子氏を新たに社外取締役として迎えることになりました。

### ガバナンスのさらなる高度化に向けて

私の取締役会議長としての最大の務めは、社外取締役が知見を存分に発揮できるよう自由闊達な会議運営を行うことと、取締役の意見・提案や質問を業務執行側がしっかりと受け止めて当社のガバナンスレベル向上に活かしていくための橋渡しをすることです。当社の経営統合後2年間、旧三菱UFJリース時代も含めると6年間の社長としての経験を、橋渡しをする際の勘所として活かし、職責をしっかりと果たしてまいります。

今年度は、取締役会の助言機関であるガバナンス委員会も活用して、当社の「攻めと守り」両面のあるべき姿、課題や改善策等についてより自由に意見交換をしていきたいと考えています。私は議長として、特に社外取締役の意見を幅広く聞き出し、それを当社ガバナンスの一層の高度化に活かしていくことで、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えしてまいります。